

新疆ウイグル自治区における過放牧問題と定住化政策の効果

ミキリグリ アデリ

キーワード：新疆ウイグル自治区，砂漠化，遊牧民，過放牧，定住化政策

1. 研究の背景

新疆ウイグル自治区は中国の西部に位置し、中国において砂漠化した面積が最大で、被害が深刻な省（自治区）であり、世界中でも砂漠化被害が深刻な地域の一つだと言える。新疆ウイグル自治区の面積は 166 万平方キロメートルであり、その中にゴビ砂漠および放棄された土地は既に 80 万平方キロメートル以上に達し、総面積の 48%以上を占め、砂漠化した草原は 8000 万ヘクタールに達している。砂漠化を防止し、砂漠化した土地や劣化された草原を総合的に改善する課題は非常に重大である。砂漠化は黄砂現象を引き起こし、黄砂による被害は中国ばかりでなく日本や韓国など近隣国にも及んでいる。

新疆ウイグル自治区は大部分が乾燥地・半乾燥地で、主に北部を中心として天然草地を利用した遊牧が伝統的に行われており、遊牧民は年間数百キロ移動しながら遊牧を行っている。天然草地は 48 万平方キロメートル存在するが 1950 年以降の人口増加等によって 4 倍近くに増加した家畜が天然草地に大きな負荷を与え、天然草地の 85%が砂漠化の危機に瀕している。「新疆维吾尔自治区防砂治砂グループ 2011 年報告」によると、新疆ウイグル自治区の砂漠化問題を引き起こす要因の中で過放牧は 51.94%を占めている。

これに対し、新疆ウイグル自治区政府は遊牧民定住化政策を実施し、牧畜民の生活の安定と天然草地の保護・回復を図ろうとしている。この政策では定住地を建設して一戸当たり 1.5 ヘクタール程度の耕作地を配分し、冬季に畜舎飼育を行い、その他の季節は天然草地の使用可能量に合わせて放牧を行うといった方法がとられている。

2. 研究の目的と方法

本論文では、遊牧民定住化政策は政府の支援の下で急速に展開されているが、果たしてそれが遊牧民の定住や所得水準の向上につながったか、また、政策の効果を十分に発揮するためにはどのような対策が必要なのかを検討することを目的とする。

分析方法としては、定住化されている牧畜農民とまだ定住化していない遊牧民に対してアンケート調査し、各世帯の人員構成・人間関係、家畜構成をはじめ収入、支出、過放牧問題及び定住化についての意識などに関する情報を収集し、彼らの生産状況と所得状況を比べることによって定住化政策が及ぼした生産と所得への影響を分析した。

3. 研究の結果と考察

定住化されている牧畜農家とまだ定住化していない遊牧民に対する家計調査結果によると、遊牧民 1 人当たりの収入は定住化された定住牧民より高いという結果が得られた。それと同時に、定住化プロジェクトのモデル農家となっている定住農牧民の最近 6 年間の家計調査によると収入はずっと上昇してきた。今後の定住化政策の有り方は、天然草地の保護と牧畜民の生計向上が両立しうる持続可能な定住事業を目指すべきである。なぜなら、牧畜民定住化によって家畜の頭数を減少させることにより、天然草地への負荷を軽減させ、かつ過放牧問題を解決して砂漠化を防止することができるからである。